大阪インターナショナルチャーチ
ジョセフ・トッティス牧師
2014年3月30日

ペテロの手紙　第二１章

２ペテロ **1:1** イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。
２ペテロ **1:2** 神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたの上にますます豊かにされますように。

私たちは恵みに値しない者ですが、神は私たちに恵みを与えてくださいました。私たちは神の恵みをお金で買ったり、自力で獲得したりすることはできません。また、恵みに値する人間になることもできません。恵みは、神が与えてくださる報酬でもありません。私が忠実に奉仕をして祈った結果ではないのです。恵みは、まったくそれに値しない者に対して与えられる神の善意です。人は、神の恵みのうちに立って初めて、神の平安を得ます。

ガラテヤ **5:22** しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

平安は、御霊の実のひとつです。それは、困難の真っただ中でも、たましいが安らいだ状態であることです。神の与えてくださる平安は、人間の理解をまったく超えたものです（ピリピ4:6-7）。神の恵みと平安がもっと増し加えられて欲しいと思いますか。私はそう思います。では、どうすればよいのでしょう。

２ペテロ **1:2** 神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたの上にますます豊かにされますように。

私たちの主であるイエスと神を知ることによってそうなります。「イエスを知れば、平安を知る。イエスなしには、平安もなし。」主を知れば知るほど、私たちは成長します。

２ペテロ **1:3** というのは、私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。
２ペテロ **1:4** その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。
２ペテロ **1:5** こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、
２ペテロ **1:6** 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、
２ペテロ **1:7** 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。
２ペテロ **1:8** これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。
２ペテロ **1:9** これらを備えていない者は、近視眼であり、盲目であって、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまったのです。
２ペテロ **1:10** ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行っていれば、つまずくことなど決してありません。

私たちの召されたことと選ばれたこと、つまり救いを確かなものとするのは、私たちの務めです。 神が召しておられることや、私たちが選ばれた者であることをどうやって確信するのでしょう。「これらのこと」を行うことによってです。その内容は何でしょう。ペテロが5-7節で記したことです。（信仰、徳、知識、自制、忍耐、敬虔、兄弟愛、そして愛です。）これらのことを行っていれば、つまずくことはないのです。逆に、これらのことを行っていないなら、確信すべき根拠もないというわけです。

生活でこれらのことを実践しているなら、イエスに似た者とされつつあるという確信を持てます。私たちの生き方がクリスチャンになる前とまったく変わっておらず、同じように生きていて、ただ教会に来て賛美したり聖書を読んだりしているだけなら、そこに確信はありません。今日ここに来ておられる人の中で、自分はクリスチャンではありません、という人もおられるでしょう。私たちはそのお一人お一人を歓迎いたします。その方々は、クリスチャンと同じように賛美したり聖書を読んだりされます。なぜこんな話をするかと言うと、教会に来ればクリスチャンになれるのではないということを皆さんに理解してほしいからです。教会に行くことは、その人がクリスチャンである証拠ではありません。

ペテロは、信仰が増し加えられなければならないと言います。召されたことと選ばれたこととを確かなものにしたいならば、信仰を育んで成長しつづけなければなりません。それは、彼が列挙したこれらの

こと、つまり（信仰、徳、知識、自制、忍耐、敬虔、兄弟愛、そして愛）をしているならば、それこそ私たちが本当に神の子となったことを示すしるしだからです。つまり、私たちが本当に召されて選ばれているなら、生まれ変わった者です。私たちが生まれ変わったのなら、それが生き方に表れるはずです。興味深いことに、ペテロは信仰を第一に挙げ、最後に愛を挙げています。愛は、私たちの人生における神の究極の働きです。この愛を本当の意味で体験してこそ、私たちは死から命へと移されたことを知るのです。ヨハネは言いました。

１ヨハネ **3:14** 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。

ここで、神の愛について少しお話したいと思います。この愛を示すとは、相手の気分を害することを言わないことだと考える人がいます。しかし、それは本当に神の愛でしょうか。愛なる神は私たちをそのように扱われるでしょうか。聖書は何と言っているでしょう。

ヘブル **12:6** 主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」

あまりしつけられていない子どもが、わがまま放題にふるまうのを見かけたことがあるでしょう。誰もがあまり目にしたくない光景です。これは愛情ある子育てとは言えません。その子はきっと将来恥ずかしい目に遭うからです。身勝手な行動によって、人間関係を深めることが難しくなり、あらゆる場面でうまくいかなくなるでしょう。しつけはなかなか楽しく簡単にすることはできませんが、必要ですし、愛情の表れです。

箴言 **27:5** あからさまに責めるのは、ひそかに愛するのにまさる。

真の友人は、愛をもって真理を語ります。関係が壊れるのを恐れて本当のことを言ってくれない友人は、本当の友人ではありません。あなたに「この先きっと困るよ」と注意するより、そのまま放っておくことを選んでいるのですから。なぜそうするかと言うと、結局は保身です。もし本当のことを言ったら何と思われるだろう、と案じます。このまま良くない行動を繰り返したらあなたがどうなるかより、自分が良く思われることのほうが大事なのです。なんとも残念な話です。

ヤコブ **4:17** こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行わないなら、それはその人の罪です。

互いを心から愛しているなら、互いに愛をもって真理を語り合いましょう。

箴言 **27:6** 憎む者が口づけしてもてなすよりは、愛する者が傷つけるほうが真実である。

ペテロは、信仰から始めて愛によって完成されるこれらのことを行うなら、私たちは決してつまずかず、召されたことと選ばれたこととを確かなものとできると言います。

２ペテロ **1:11** このようにあなたがたは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国に入る恵みを豊かに加えられるのです。
２ペテロ **1:12** ですから、すでにこれらのことを知っており、現に持っている真理に堅く立っているあなたがたであるとはいえ、私はいつもこれらのことを、あなたがたに思い起こさせようとするのです。
２ペテロ **1:13** 私が地上の幕屋にいる間は、これらのことを思い起こさせることによって、あなたがたを奮い立たせることを、私のなすべきことと思っています。
２ペテロ **1:14** それは、私たちの主イエス・キリストも、私にはっきりお示しになったとおり、私がこの幕屋を脱ぎ捨てるのが間近に迫っているのを知っているからです。
２ペテロ **1:15** また、私の去った後に、あなたがたがいつでもこれらのことを思い起こせるよう、私は努めたいのです。

ペテロはここで自分の幕屋について語っています。自分の肉体は迫害されてまもなく死ぬと言っています。彼は、自分が死んで直接信者たちを励ますことができなくなった後も、この手紙が信者たちの心を動かしてくれるように、と願っていました。そして、確かにそうなりました。2000年の時が流れた今も、彼の手紙は信者を励まし続けています。

２ペテロ **1:16** 私たちは、あなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨とを知らせましたが、それは、うまく考え出した作り話に従ったのではありません。この私たちは、キリストの威光の目撃者なのです。
２ペテロ **1:17** キリストが父なる神から誉れと栄光をお受けになったとき、おごそかな、栄光の神から、こういう御声がかかりました。「これはわたしの愛する子、わたしの喜ぶ者である。」
２ペテロ **1:18** 私たちは聖なる山で主イエスとともにいたので、天からかかったこの御声を、自分自身で聞いたのです。

これ以上の決定的な証言はありません。この人は、「私はそこにいて、この目で見た。この耳で聞いた。私は目撃者だ」と言っているのです。しかし、ペテロは自らの目撃証言よりもさらに力強い証拠をここで提示します。それは何でしょう。神の預言のことばです。

２ペテロ **1:19** また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜明けとなって、明けの明星があなたがたの心の中に上るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。
２ペテロ **1:20** それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。
２ペテロ **1:21** なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。

ペテロは、自分の目撃証言よりも力強いイエス・キリストについての証言として、旧約聖書の預言を引き合いに出します。具体的な預言が成就した例は数多くあります。旧約聖書には、メシヤの生誕、人生、死に関する詳細な預言が300以上もあります。イエス・キリストは、そのすべてを成就しました。預言は、暗闇の歴史を照らす灯りのようなものです。それは、私たちの心を「明けの明星」であるイエス・キリストに向けさせる光です。これらの預言は、人間の理想や考えを表したものではありません。人の意志で書かれたものでもありません。人は、文字を書く器として用いられましたが、自分の意志に従って書いたのではなく、聖霊の導きに従った人がそのままを書いたのです。パウロもペテロと同じことを述べました。

２テモテ **3:16** 聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

聖書はすべて、神の霊感によるものです。そのような主張をどうやって信じればよいのでしょう。当時は、預言が成就したことが、聖書の正当性を証明しました。それは今日でも同じです。否定することのできない動かぬ証拠です。それは、聖書と他の宗教書を画するものです。

イザヤ **42:8-9** わたしは【主】、これがわたしの名。わたしの栄光を他の者に、わたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。**9** 先の事は、見よ、すでに起こった。新しい事を、わたしは告げよう。それが起こる前に、あなたがたに聞かせよう。」

イザヤ **44:6-8** イスラエルの王である【主】、これを贖う方、万軍の【主】はこう仰せられる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はない。**7** わたしが永遠の民を起こしたときから、だれが、わたしのように宣言して、これを告げることができたか。これをわたしの前で並べたててみよ。彼らに未来の事、来たるべき事を告げさせてみよ。**8** 恐れるな、おののくな。わたしが、もう古くからあなたに聞かせ、告げてきたではないか。あなたがたはわたしの証人。わたしのほかに神があろうか。ほかに岩はない。わたしは知らない。

神はここでこう言っておられます。もしその信仰が本物なら証明しなさい、未来のことを告げさせてみなさい、と。世の中には、神によって書かれたと信者たちが主張する宗教書が、聖書以外に２６もあります。この２６の書物の中で、成就した具体的な預言を含むものはひとつもありません。一方、聖書の信憑性は、完全に預言に基づくものです。数多くの具体的な預言があり、それは成就する何百年も前に書かれたものばかりです。実際、聖書の約２７％（4節にひとつ以上）は、書かれた当時、まだ起こっていない預言のことばなのです。イエスは弟子たちに繰り返しこのように話されました。

ヨハネ **14:29** そして今わたしは、そのことの起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったときに、あなたがたが信じるためです。

マタイ **24:25** さあ、わたしは、あなたがたに前もって話しました。

マルコ **13:23** だから、気をつけていなさい。わたしは、何もかも前もって話しました。

ヨハネ **16:4** しかし、わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、その時が来れば、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。

それほど多くが成就しているなら、まだ成就していないものも疑う必要があるでしょうか。ふたつの例を挙げてみましょう。

ゼカリヤ **14:12** 【主】は、エルサレムを攻めに来るすべての国々の民にこの災害を加えられる。彼らの肉をまだ足で立っているうちに腐らせる。彼らの目はまぶたの中で腐り、彼らの舌は口の中で腐る。

この個所は、2500年以上前に書かれたものです。この個所はあまりに想像を絶する光景なので、懐疑的な人たちは何世紀もの間、まともに取り合っていませんでした。第一に、イスラエルは1948年まで国家ではありませんでした。次に、人間をこのような状態にする武器は以前ありませんでした。しかし、現

在ではこれが現実になる可能性を否定する人はいないでしょう。ヨハネは、終わりのときにエルサレムで反キリストによって殺される2人の預言者について記しました。

黙示録**11:9** もろもろの民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめていて、その死体を墓に納めることを許さない。

全世界が、3日半の間、彼らの体を眺めるのです。この個所は約2000年前に書かれたものです。この個所についても、19世紀までは懐疑論者たちがこんなことはあるはずがない、と笑っていました。写真の技術は1879年に発明されたからです。写真の技術があっても、全世界が3日半も見るということが、あり得るでしょうか。今なら、その可能性を疑う人はいないでしょう。私は今までに、世界の貧困地域を旅しましたが、そこで目にしたものは何だと思いますか。衛星放送用のアンテナです。これが2000年前に記されているとはまったくの驚きです。神のみことばは真理です。神が言われたのなら、神は本気ですし、そのとおりになります。聖書は、人類の歴史上、一番のベストセラーであり、出版数や配布数も一番です。もっとも多くの言語に翻訳され、多くの人に引用される、どの本よりも影響力のある書物です。それには、理由があります。神のみことばだからです。ですから、私たちは聖書を信頼することができます。

ローマ **3:4** ･･･たとい、すべての人を偽り者としても、神は真実な方であるとすべきです。